

第51回インナーゼミナール大会 研究計画書

ゼミ名	宮川ゼミ	チーム名	明太子の集い
タイトル	自信を付けたい！！ただそれだけなんだ！		
テーマ群	a) 理論・情報		
メンバー	岡村奈央子、尾身琳太郎、福田萌水、木村圭佑、成田佳代		
研究計画内容	<p>「研究の背景と目的」</p> <p>最近の若者は自信がないという言葉をよく耳にする。内閣府が平成30年に行った調査においても、日本の若者は他の先進国の若者と比べて自信がないことがわかる。教育や仕事の現場でも、若者の自信のなさというのは問題視されている。そこで私たちはどうすれば自信をつけることができるのか、またその自信はどのような結果に結びつくのかを調べることにした。この研究から、若者の自信を高める方策を探りたい。また、私たちが未知の課題（例えば、就職活動）に挑む際、自信をもって立ち向かうためには何をすべきか、実験経済学的な分析手法を通じて、実験データから明らかにしたい。</p> <p>「研究内容」</p> <p>今回私たちは木成・大竹・奥平・水谷（2010）が行った自信過剰と労働生産性に関する既存研究をもとにオリジナルの実験を行う。この研究は、自信過剰と結果にどのような影響を与えるのかについて調べたものである。私達は、社会に出て必要とされる能力を3つ想定し、それらを測定する3つの問題、集中力が問われる計算問題、発想力が問われるひらめき問題、多面的思考力が問われる動物探し問題を被験者に解いてもらった。その際、問題の成果と「問題に取り組む自信」の関係を考察した。具体的には、被験者を4つのグループに分け、ランダム化比較試験(RCT)で自信と成果の関係を行った。「問題が簡単だ」という情報を伝えるのか、「問題が難しい」という情報を伝えるのか、それとも問題の経験値を与えるのか、どの方法が一番自信を伸ばし、また成果に結びつくかを調査する。</p> <p>「期待される効果」</p> <p>自信がどのような要因（課題の難易度、経験の有無）によって高まるかを統計的に明らかにし、最も効果的に自信を付けさせる方法を見つける。また、自信の大きさと課題の成果の関係を明らかにすることで、どのようなタイプの課題に対して、自信を持った状態で物事に取り組むことが良い結果が得られるようになるかを解明する。これらの結果から、課題に直面する中でどのようにして、さらなる自信をつけていけるか、どのような取り組みがさらなる自信に繋がるかを提案する。これらのことを総合して、自分に自信を持って行動できる若者を増やすための提言を行いたい。</p> <p>「参考文献」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内閣府「我が国と諸外国における若者の意識に関する調査(平成30年度)」(子供・若者に関する調査研究等、https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/h30/pdf/s2-1.pdf、2021年10月20日) ・木成 勇介、大竹 文雄、奥平 寛子、水谷 徳子「自信過剰が競争的環境における生産性に与える影響」(https://www.jstage.jst.go.jp/article/jbef/3/0/3_0_187/_pdf/-char/ja、2021年10月25日) 		